

本年度の研究発表大会についてご報告します。

## 【社会科 3年生】

尾崎隆宏教諭による社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」の提案授業が行われました。

スーパーマーケットとその正面にあるコンビニエンスストアの販売の工夫に着目し、比較をすることを通して、販売店の特色と利用する客の関わりについて考えました。同じ時間帯であっても、スーパーマーケット、コンビニエンスストアの両方がにぎわう様子を取り上げ、「スーパーマーケットの方が品数が多く、品の値段も安めであるのに、コンビニエンスストアにたくさんのお客さんが来るのはどうしてか？」について、多様な意見が飛び交いました。



社会科の授業の様子

「短時間で買い物がすむ」「好きな時に買い物できる」「各地にコンビニがあるので家からでも、出かけた帰りなどでも寄ることができる」「郵便やコピーなど、買い物以外でも便利」など、子供たちは、資料の読み取りや話し合い、店長さんのお話からの聞き取りを通して、店側と客側の両方の視点で考えました。

これまで、子供たちはスーパーマーケットについて、調査や見学から、店内の工夫や値段、品揃え、お店の方の努力などを学んで来ました。これらの視点に加え、本学習を通して、販売と人々の生活との関わりには、回転率、立地、時間帯、生活の動線など、多様な背景や心理に考えを巡らせ、学びを深めることができました。

## 【社会科 3年生】

田中雅子教諭による社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」の提案授業が3年2組で行われました。これまで子供たちは、スーパーマーケットの見学を通して学習した中から、売るための工夫を発見してきました。本時はそれらの学習を踏まえて、スーパーマーケットの品物を売ること以外の取組に焦点を当てて学習しました。子供たちはどのスーパーマーケットにも貸し出し用車いすがあることや、ハートフル駐車場があることなどに気付き、誰もが利用しやすい店づくりをしていることを学びました。また、なぜ、リサイクル回収ボックスが設置されているのか考えることを通して、環境を守り、資源を生かす取組をしていることにも気付きました。プラス1（ワン）として教師の方から、スーパーマーケットでは義援金活動やクリーン活動なども行っていることを紹介し、「地いきこうけん」という言葉も学習しました。

経験や写真の中から発見したり、映像を通してスーパーマーケットの店長さんの話を聞いたりして興味深く課題を追究する子供たちの姿が見られた授業でした。



社会科の授業の様子

分科会では、資料の取捨選択や効果的なプラス1（ワン）の設定について話し合われました。特にプラス1（ワン）は、「～なのに、～なのはどうしてか」という課題を設定することで、子供たちの思考が深まるのではないかと、という意見が出されました。

これからも、子供たちの生活や経験と結び付けて考えたり、発見したりしながら、多面的なものの見方・考え方を育てる授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。

## 【国語科 2年1組】

国語科では、竹内由美教諭による提案授業『もの語の中に入りこんでみよう』教材文「名前を見てちょうだい」が行われました。この学習の主なねらいは、作品を人物の行動を想像しながら読むこと、読み取ったことを基にして音読劇に表現できることです。



国語科の授業の様子

授業では、本時までの学習で学んできた「会話文や言葉」「人物になりすます」「自分と重ねる」に気を付けながら音読劇の練習を行い、3グループが5場面までの音読劇を行いました。子供たちは、よりよい音読劇を三次の学習にもつなげていくため、友達の声の出し方や動きの工夫の良い点をたくさん見つけたり、自分達のグループと比べて気付いたりしたことを進んで伝え合いました。そして、「声」だけでなく「動き」も付けると場面の様子がよく分かり、作品が楽しくなってくることを確認することができました。

分科会では、挿絵を拡大投影するなどの場面設定は低学年には有効であった、子供たちが友達の音読の良い点をたくさん見つけていたなどのご意見をいただきました。音読劇の表現の個人差については、本人の最善解でよしとするのか、第三者の納得解までを求めるのかなどの意見が出ました。また、共同研究者の小笠原先生より、低学年で物語に入り込む楽しさが分かることが中学年で叙述中心の読みにつながっていくなどのお話をいただきました。

今後も、並行読書を大切にしながら、単元や毎時間の導入、友達との共有学び、本時の学習を次へと生かす振り返りを取り入れた授業実践を進めていきます。

## 【国語科書写 1年1組】

三谷早苗教諭による提案授業「かたかなのかきかた～とめ・はらい・はね～」が行われました。水書用筆を用い、力の入れ加減や滑らかな運筆を意識して書くことを通して、片仮名の「とめ」「はらい」や画の方向の違いを理解して正しく書くことをねらいとした学習をしました。

授業では、「とめ」「はらい」を意識して、かたかなの「ハ」「ン」の文字を書きました。書いた文字の課題は、自分で考えるだけではなく、近くの子供との話し合いで考えました。また、課題解決に向けて練習するために、水書用筆を



国語科（書写）の授業の様子①

適宜用いるようにしました。水書用筆を用いることで、力の入れ加減や滑らかな運筆を実感することができたようでした。まとも書きの段階では、「とめ」「はらい」を意識して書くことができる子供の姿がたくさん見られました。また、「とめ・はらい」だけでなく、字形やバランスを考えながら練習する子供も見られました。

分科会では、水書用筆の持ち方・活用の仕方について、「大きく書いた方が、より『とめ・はらい』を意識できるのではないか」「水書用筆を使うことで、子供が自分の書く文字に気付ける」などの意見をいただきました。

今後、水書用筆の使い方や「とめ」「はらい」が意識して書けているかを検証していきます。



国語科（書写）の授業の様子②